

Fukuoka City Hospital
F C H

Vol. **43**

2022
Autumn

令和4年度脳卒中・大腿骨頸部骨折地域医療連携パス連絡会



- 血管外科・腎臓内科・感染症内科
- 脳卒中相談窓口
- 福岡東部オープンカンファレンス開催
のお知らせ（多職種で取り組む脳卒中予防）



地域医療支援病院
地方独立行政法人福岡市立病院機構

福岡市民病院

福岡市博多区吉塚本町 13-1
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900
<http://www.fcho.jp/shiminhp/>

当院の血管外科では、

- 1) 加齢や動脈硬化をベースとする下肢閉塞性動脈硬化症等の末梢血管疾患
- 2) 腹部大動脈瘤・総腸骨動脈瘤等の胸部を除く大動脈疾患
- 3) 下肢静脈瘤
- 4) バスキュラー・アクセス（いわゆる透析シャント）の外科的治療を担っております。当科では下記のような治療により、患者さんの負担をできるだけ軽減しながら、文字通り「患者の足を支える」治療の提供に取り組んでいます。

1) 下肢閉塞性動脈硬化症

加齢・高血圧・糖尿病・脂質異常症・透析等の動脈硬化性疾患をベースとした下肢虚血は、歩行障害の原因となるだけでなく、重症化した場合には下肢切断から著しい機能障害や生命の危機に至る疾患です。

従来より代用血管を用いたバイパス手術を血管外科では担ってきましたが、近年ではバルーン・ステント等各種デバイスの進歩に伴い、カテーテルによる血管内治療の症例が増加しており、最短で1泊2日の入院での治療を行っています。

また足部潰瘍・壊疽を合併した症例に対しては、陰圧閉鎖吸引療法（negative pressure wound therapy）やLDLアフェレーシス（レオカーナ）等の特殊処置を組み合わせた治療を提供しています。

2) 腹部大動脈瘤

腹部大動脈瘤の治療では、2006年より開腹を要しないステントグラフト内挿術が保険収載され、侵襲性が低下しましたが大口径シースを挿入するため両鼠径部を切開する必要性がありました。2021年から、大口径シースの経皮的穿刺に対する止血デバイスが登場し、当科でも「切開しない」ステントグラフト内挿術が中心と

なりました。両鼠径部に5mm程度の穿刺孔が生じるのみで、患者の術後疼痛や創部合併症が減少し、約5日前後の入院期間での治療が可能となっております。

3) 下肢静脈瘤

従来までのストリッピング手術やレーザー・ラジオ波で原因血管をカテーテルで焼灼する下肢静脈瘤血管内焼灼術に加えて、2021年からは原因血管に塞栓物質をカテーテルで注入する下肢静脈瘤血管内塞栓術が保険収載され、当科でも静脈瘤手術の中心的術式となっております。

従来手術に比べて熱傷等の合併症や疼痛が少ないこと、約20-30分程度の日帰り外来手術が可能となったこと、術後の弾性ストッキング着用が不要となったことにより、より負担が少ない治療を患者の皆様にご提供できるようになりました。

4) バスキュラー・アクセス治療

当科では新規透析シャント造設はもちろんのこと、バスキュラー・アクセスの各種トラブルに対応しています。透析患者さんのバスキュラー・アクセスの狭窄・閉塞に対しては、薬剤塗布バルーンやステントグラフト等の各種最新デバイスを必要に応じて用いるPTAや血栓除去を、原則日帰り手術で行っております。

また、シャント瘤や時として緊急処置を要するシャント感染等も、一人一人の患者さんの状態に合わせた治療を行っています。

これらをはじめとした各種治療を安全かつ適切にご提供することにより、患者の皆さんにご満足いただけるよう、また、地域の先生方の診療の一助となるよう今後とも取り組んでまいります。



●Profile

血管外科科長

江口 大彦

日本外科学会専門医、日本心臓血管外科学会専門医

日本血管外科学会血管内治療専門医

腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医

下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医

心臓血管外科関連施設修練指導医

日本血管外科学会評議員



当院の腎臓内科は平成24年に開設されました。現在腎臓内科専門医2名、レジデント1名により診療を行っています。当科では尿蛋白や血尿など検尿異常のある患者さんへの検査・治療から、慢性腎臓病および急性腎障害の患者さんの治療、進行した腎不全の患者さんに対する血液透析療法・腹膜透析療法など、腎疾患患者さんに対する幅広い診療を行っています。

蛋白尿や血尿を指摘され受診された患者さんに対しては、当院にて再度腎疾患評価を行います。必要な患者さんには入院の上、腎生検による組織診断を行い、組織診断の結果に基づき治療方針を決定します。

腎機能が低下する慢性腎臓病のためご紹介いただいた患者さんに対しては、外来もしくは入院にて現在の状態を把握し、慢性腎臓病の原疾患の検索、現在の病態評価、腎機能を低下させている増悪因子の検索を行います。状態に応じた薬物療法、食事療法、生活指導などを行い、慢性腎臓病の進展阻止を試みます。

高血圧・糖尿病が原因の慢性腎臓病の患者さんの場合は、基本的にはかかりつけの先生に通院していただき、当院へも定期的に受診していただきます。

慢性腎臓病が進行し、腎代替療法（透析療法・腎移植）が必要になった患者さんへの治療も当科にて行なっています。当院では血液透析、腹膜透析どちらも選択可能です。腹膜透析を開始した患者さんは、透析開始後も当院に通院していただいています。

当院では維持血液透析は基本的に行っていません。維持血液透析が必要になった患者さんには、ご自宅近くの維持血液透析施設をご紹介しています。腎移植を希望される患者さんには腎移植外科をご紹介いたします。

最近ではSGLT-2阻害薬・MR拮抗薬などの薬剤を減塩・蛋白制限などと組み合わせて使用することにより慢性腎臓病進展阻止が可能となっています。早い段階で慢性腎臓病患者さんを当科へご紹介いただければ幸いです。



●Profile

腎臓内科科長

池田 裕史

日本内科学会認定医

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医



当院は第二種感染症指定医療機関として2014年に福岡県から指定を受け、現在4床の病床を設置しております。感染症内科は、指定医療機関としての役割を充実させるべく2015年に開設され、当初は1人体制からスタートし、2021年度より3人体制となりました。

2020年初頭より新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、重点医療機関に指定されたこともあり、九州大学病院からも感染症内科医を派遣していただきながら、新型コロナ感染症を含め、様々な感染症に対する診療に日々従事しております。

地域の医療機関からのご紹介を含め、外来を受診される患者さんは、不明熱や、軟部組織感染症、尿路感染症などの感染症、渡航関連感染症が疑われる方など、多岐にわたります。自科での診療だけでなく、各科からのコンサルテーションへの対応や血液培養陽性症例の回診、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）としての活動、院内感染対策への取り組みなども行っております。近年、世界的に薬剤耐性菌が大きな問題となっております。最近の研究で、耐性菌が関与する死亡者数が想定より早い勢いで増加している可能性が示されており、早急に、かつ確実な対策を行うことが望まれます。抗菌薬開始前の培養検査提出、広域抗菌薬からの速やかなde-escalation（より適切な狭域抗菌薬への変更）などについて、細菌検査室技師や薬剤師と連携を取りながら適宜各診療科への呼びかけを行い、抗菌薬適正使用を目指すとともに、薬剤耐性菌の検出時は、迅速に各部署への周知、対策を行い、薬剤耐性菌蔓延を防いでおります。

新型コロナ感染症に対しては、院内や地域に対して感染対策などの啓蒙活動を行い、疑い症例や陽性者の診療を行っています。

また院内の多職種で立ち上げたコロナ対策本部において、様々な問題への対応策を講じ、各種取り決めを行い、院内での陽性例発生時には可及的に早期対応し、その後の感染拡大防止に努めています。感染症はあらゆる人、あらゆる臓器に起こり得るものであり、患者さんの診療において他診療科や多職種との連携が非常に重要になると考えております。引き続き、相互に協力しながら、患者さんの病状回復、予後改善に努めてまいります。

withコロナが世界的な流れとなり、日本でも新型コロナ感染症流行前の生活に少しずつ戻りつつありますが、恐らくまた感染の波はやってくるでしょう。そして世界では新型コロナ感染症以外にも様々な感染症が現在進行形で発生しており、先に述べたように耐性菌の問題も深刻です。人々の移動が活発化することで病原体も運ばれやすくなり、種々の感染症が日本に持ち込まれるリスクも高まります。そういった感染症の発生動向に常に注目し、適切な情報を適宜活用し、有効な感染対策を取っていくことが大切になります。2022年4月からは感染対策情報発信センター（ICIC）を始動いたしました。新規感染症を含め、様々な感染症について、地域への情報発信、感染対策支援を行ってまいります。

患者さん1人1人と真摯に向き合いながら、軽症から重症まで質の高い感染症診療を提供できるよう心がけてまいります。そして、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、スタッフと一致団結し、院内のみならず地域の感染症診療にも貢献できるよう日々励んでまいりたいと思いますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。



●Profile

感染症内科科長

原田 由紀子

日本内科学会総合内科専門医・認定医

日本感染症学会専門医・指導医

日本化学療法学会指導医・認定医

インフェクションコントロールドクター（感染制御医）



『脳卒中相談窓口』を設置しました

当院は、地域医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療を開始できる「一次脳卒中センター（PSC: Primary Stroke Center）」に、日本脳卒中学会より認定されております。

このたび、脳卒中患者に対して医療及び介護に関する適切な情報提供を行う「脳卒中相談窓口」を令和4年10月1日に設置いたしました。（詳細は以下をご覧ください）

今後も、地域における脳卒中診療の中核となる施設として活動してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

脳神経・脳卒中センター長
（脳神経内科科長） 長野 祐久

『脳卒中相談窓口』

【対象者】

入院中あるいは当院入院歴のある脳卒中患者およびそのご家族

【主な相談内容】

- 再発や合併症予防について
- 治療と仕事の両立支援について
- 介護保険・福祉サービスについて
- 運転免許や通院等の交通手段について
- 転院先、療養先の選定支援について など

※ 事前に予約が必要です。

【問い合わせ先】

- ◀外来▶患者サポート窓口（1階）
- ◀入院▶SCU（5階） TEL：092-632-1111（代表）
- ※平日10時～15時（休診日）を除く

脳卒中に関するさまざまな相談を受け支援を行う、脳卒中療養相談士を配置しておりますので、対象の方がいらっしゃいましたら、お気軽にご紹介ください!!



医療従事者の脳卒中関連についてのお問い合わせは、下記まで直接お電話いただくこともできます。



※脳卒中センターホットライン（医療従事者専用）
TEL：080-5213-0119（24時間専門の医師が対応します）

第51回

福岡東部オープンカンファレンス

2022年12月5日 (月)

18:30~20:00

多職種で取り組む
脳卒中予防



日本医師会生涯教育講座
1.5単位

- 10 チーム医療
- 11 予防と保健
- 78 脳血管障害後遺症



座長：脳神経外科
平川 勝之
診療統括部長

【参加申込】 Cisco Webex Webinars

URL : <https://shiminhp.fcho.jp/event/oc>

演題①

脳卒中再発予防に対する当院の
取り組み

SCU師長 那須 美和

演題②

脳梗塞の再発予防薬について

薬剤師 三輪 千紘

演題③

脳卒中の予防治療
～脳神経外科の観点から～

脳神経外科 千住 和正

演題④

脳卒中の予防治療
～内科的治療を中心に～

脳神経内科 向井 達也

【問い合わせ先】



〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番1号
地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市民病院 地域医療連携室
Tel 092-632-3430 Fax 092-632-3431
E-mail renkei@fcho.jp
【主催】福岡市民病院・福岡市医師会 【共催】博多区・東区・粕屋医師会

令和4年度 脳卒中・大腿骨頸部骨折 地域医療連携パス連絡会 を開催しました。

令和4年10月12日(水)にWEBにてパス連絡会を開催しました。19の連携施設様にご参加いただき、MSWと医師による実績報告、情報提供を行いました。機能と連携を充実させる取り組みを今後も継続していきたいと考えておりますので、連携パスにご協力のほどお願いいたします。



【視聴URL】

<https://youtu.be/GotDQwGQpcA>

連携病院



患者さんのご紹介方法

外来受診の場合

診療受付時間 月～金曜日【8:30～11:00】

| 来院時間 | |
|--------------|--|
| 8:30～11:00 | 初診は予約制ではないため、紹介状をお渡しのうえ、当院へご案内ください。 事前にFAXにてご紹介いただく場合は、ホームページに掲載している「診察申込書」をプリントアウトしてご利用いただけます。 |
| 11:00～17:00 | 急患・ご紹介の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。 (TEL:092-632-3430) (FAX:092-632-3431) |
| 17:00～翌日8:30 | 当院・時間外窓口(代表)へご連絡ください。 (TEL:092-632-1111) (FAX:092-632-0533) |

各種研修会動画一覧

過去に開催された研修会の動画をYouTubeでご視聴いただけます。

- 第50回福岡東部オープンカンファレンス
「循環器の新しい検査と治療について」
<https://youtu.be/hqcZzLrxPws>
- 第49回福岡東部オープンカンファレンス
「当院の再診医療～新任の紹介を兼ねて～」
<https://youtu.be/1pjazK4zqOs>
- 消化管症例検討会
「ESDを施行した胃印環細胞癌の一例」
「術前化学放射線治療により腫瘍が縮小し、肛門温存しえた進行下部直腸癌の一例」
<https://youtu.be/esnfVP6J7xw>

年末診療について

例年通り、2022年12月29日(木)から2023年1月3日(火)まで年末年始のため休診としますが、救急外来につきましては通常通り24時間対応しております。



福岡市民病院 外来担当医一覧表 (受付時間：平日 午前8時30分～午前11時)

◎：新患 ●：再来

| 診療科 | 専門分野 | 医師名 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------|--------------|------------------|---|-----|---|-----|-----|
| 消化器外科 | 消化器外科，一般外科 | 東 秀史 西田 康二郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 消化器外科，一般外科 | 西村 肇 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 消化器内科 | 消化管一般，病態栄養 | 高橋 俊介 松口 崇史 | ○ | 内視鏡 | ○ | 内視鏡 | ○ |
| | 消化管一般 | 今村 壮志 | ○ | 内視鏡 | ○ | 透視 | 内視鏡 |
| | 消化管一般 | 長田 美佳子 | ○ | 内視鏡 | ○ | 内視鏡 | 内視鏡 |
| | 消化管一般 | 後藤 綾子 | ○ | 内視鏡 | ○ | 内視鏡 | 内視鏡 |
| 肝臓外科 | 肝・胆・膵外科，胆石外来 | 三宮 瑞樹 武石 一樹 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 肝・胆・膵 | 小柳 年正 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 肝臓内科 | 肝・胆・膵 | 樋口 野日斗 中村 史 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 肝・胆・膵 | 坂口 恵亮 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 血管外科 | 血管外科，腎不全外科 | 江口 大彦 川久保 英介 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 腎臓内科一般，血液浄化 | 池田 裕史 吉田 祐子 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 腎臓内科 | 腎臓内科一般，血液浄化 | 吉田 祐子 南 優希 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 腎臓内科一般，血液浄化 | 坂井 義之 伊藤 寛治 | ● | ◎ | ● | ● | ◎ |
| 糖尿病 | 糖尿病 | 原田 由紀子 南 順也 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| | 糖尿病 | 藤吉 直子 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| 感染症内科 | 感染症 | 清澤 恵理子 村山 佑里子 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| | 感染症 | 浅田 大地 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| | 感染症 | 古賀 夕貴子 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| 放射線科 | 画像診断一般，IVR | 清澤 恵理子 村山 佑里子 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| | 画像診断一般 | 浅田 大地 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |
| | 画像診断一般 | 古賀 夕貴子 | ◎ | ● | ● | ◎ | ● |

| 診療科 | 専門分野 | 医師名 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------|--------------------------|-----------------|---|---|---|---|---|
| 内科 | 循環器内科 | 伊藤 梁 大坪 秀樹 | ● | ◎ | ◎ | ◎ | ● |
| | 循環器内科 | 小川 清寛 | ○ | ● | ● | ● | ◎ |
| 脳神経内科 | 脳血管障害，神経外傷，脊髄疾患，脳腫瘍，てんかん | 早川 勝之 吉野 慎一郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 脳神経内科一般 | 長野 英明 中垣 憲一 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 脳神経外科 | 脳神経外科一般 | 回井 達也 賀藤 太一 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 脳神経外科一般 | 柴田 憲一 回井 達也 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 整形外科 | 脊椎外科 | 田中 哲也 中原 貴之 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 股関節外科，膝関節外科 | 青野 誠 矢部 憲士 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 眼科 | 眼科一般 | 前田 真奈美 山家 華代 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 眼科一般 | 小野 雄一 柳田 雄一郎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 救急科 | 救急医学，集中治療医学 | 救急医学，集中治療医学 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 集中治療部 | 救急医学，集中治療医学 | 救急医学，集中治療医学 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

編集・発行

地方独立行政法人 福岡市立病院機構

福岡市民病院

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番1号
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900
http://www.fcho.jp/shininhp/

■受付時間：平日8：30～11：00

■休診日：土日祝日・年末年始（12/29～1/3）

■急患は救急外来で24時間対応します。

地域医療連携室直通 (平日 8:30～17:00)

TEL: 092-632-3430 FAX: 092-632-3431

